



介護老人保健施設 華

ため、低たん白食や減塩食など管理栄養士による専門性の高い食事指導もきめ細かく実施。また、腎不全が進んだ患者でも腎臓提供者の候補があれば、近隣の大学病院と連携し、腎臓移植を推奨し、移植がスムーズに受けられる体制も整える。

「私たちの基本スタンスはいかに透析を回避するであり、保存期に徹底した指導・管理を行います。そのうえで残念にも透析が必要になった方には最善の透析治療の提供に努めます。1人の患者さんに対して1人の看護師が付き、医師と看護師が情報共有し、患者さんとコミュニケーションを円滑に進めることで、個々の患者さんに合った

療養病床や老健でも透析治療を受けられる

良秀会では、外来通院透析施設に加えて療養病床や老人保健施設、老人ホームを整備し、患者の病状や状況のあらゆる変化に対応できる「包括的かつ継続的透析医療」を受けられるように万全を期している。

40年にわたって腎臓疾患を診てきた宗正敏医師は、「今から20年前前は、透析患者さんの平均年齢は50歳程でしたが、現在は70歳程になり、80〜90代の方も多くなっています。通院での治療が困難になった方、脳梗塞などで麻痺が生じて在宅では介護ができない方も透析治療を継続できるような、多様な受け入れ先を用意していることも当グループの特徴の1つです」と語る。

通院透析が困難になる患者は

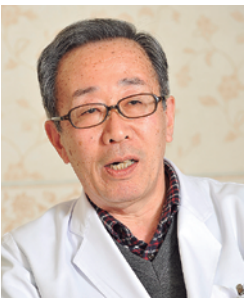
全国的に今後さらに増えることが予測される。泉州地域の透析拠点施設である責任を担う良秀会は、他の医療施設に通う患者をいかに受け入れていくかという課題にも積極的に取り組む。

患者の生活環境や社会背景に応じて多様な透析療法を実施

一方、仕事に従事する若い年齢の患者には夜間18〜22時の透析も提供し、透析時間が仕事に支障をきたさないようにサポート。さらに患者が希望すれば、自宅に透析機械を設置し、自身で透析を行う「在宅血液透析」を選択することも可能だ。

藤井病院副院長の射手矢巖医師は、その特徴を次のように語る。

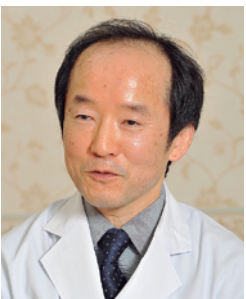
「在宅血液透析は、基本的に1回2時間、週6日行います。頻回に透析することで体内のさまざまな物質の濃度変化が小さくなり、通院血液透析よりも体調は向上します。ただし、透析装置の立ち上げから後片付けまですべてを自分で行なければならず、透析時のトラブルに対処できるような介助者も必要です」



介護老人保健施設 華 施設長

宗 正敏

むね・まさとし／和歌山県立医科大学卒業。医学博士。日本腎臓学会認定腎臓専門医。日本透析医学会透析専門医評議員。日本内科学会近畿支部評議員。日本動脈硬化学会評議員。



藤井病院 副院長

射手矢 巖

いてや・いわお／和歌山県立医科大学卒業。医学博士。日本内科学会認定内科専門医。日本腎臓学会認定腎臓専門医。



藤井病院・腎透析センター

在宅で行えるもう1つの透析法「持続腹膜透析」は、患者自身の腹膜を濾過装置として利用し、長時間かけてゆっくり透析を行う。

「そのため心臓・血管系への負担がほとんどなく、食事制限も非常に緩和されるため、高齢患者さんにはむいています。ただし、6〜7年で腹膜機能が劣化するの、その後は血液透析に移行する必要があること、尿毒素を排除する効率が機械血液透析より落ちるという欠点があります。しかし高齢であればもともと尿毒素はできにくいいため、

地域の中核病院としての責務を果たすため、あらゆる角度から透析患者のニーズに応え質の高い透析医療を提供する努力が続く。



高石藤井病院



高石藤井心臓血管病院

循環器疾患などの合併症対策が充実

医療法人良秀会はこれまで29年にわたり、泉州地域における透析医療の中核を担ってきた。現在は法人全体で720名を超える透析患者を受け入れる。（平成27年10月集計）

「当法人では患者さんの生活環境や社会背景に応じて、血液透析だけでなく腹膜透析や在宅透析なども積極的に行っています。さらに透析患者さんに長生

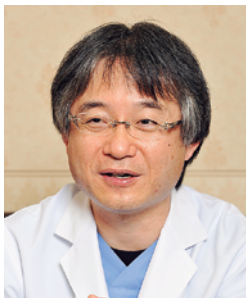
さしていたくためには、日々

の透析だけでなく、心疾患などの合併症を早期に発見し対応することが最も重要です。近年は透析患者さんの高齢化に伴い、合併症による緊急対応や救急搬送、日常生活レベルの低下などの理由から、入院が避けられないケースが多くなっています。

日頃から透析部門とその他の診療部門が情報共有を行い、病院としての総合力が発揮しやすいよう努めています」と藤井良幸理事長は病院で透析医療を受け

るメリットについて説明する。

心不全や心筋梗塞などの心臓・血管障害は、死に至ることもある深刻な疾患だ。良秀会グループは高石市の隣接した敷地内に高石藤井病院と高石藤井心臓血管病院を設置し、循環器系の疾患にも迅速に対応できる専門施設を完備する。また、高石藤井病院の院長を務める佐藤弘章医師は腎臓内科を専門に、循環器疾患をもつ患者の治療にも数多く携わった経験をもつことから患者の全身を診ることに努める。



高石藤井病院 院長

佐藤 弘章

さとう・ひろあき／奈良県立医科大学卒業。医学博士。日本内科学会認定総合内科専門医。日本腎臓学会認定腎臓専門医。日本透析医学会認定透析専門医。日本循環器学会認定循環器専門医。



腎・透析センター長

雑賀 保至

さいが・やすし／和歌山県立医科大学卒業。医学博士。日本腎臓学会認定腎臓専門医。日本透析医学会認定透析専門医。日本内科学会所属。

「透析患者さんの死亡原因の約3割を占めるのが、心不全や心筋梗塞などの心臓病です。循環器系の合併症は一刻を争うことが多いので、24時間体制の診療を心がけています。かつ、日常の診療でもわずかな変化を見逃さず、早期のうちに問題を発見できるように努めています」と佐藤院長。

良秀会グループでは血液透析を受ける際に必要な、手首などの動脈と静脈を縫い合わせる「シャント」造成手術の実績も豊富で、今年で約130件もの手術を実施。

「シャントのトラブルは急に発生することが多いため、シャントが狭窄していないか、細心の

注意をはらいます」と佐藤院長。シャントが狭窄するトラブルが生じた場合も、シャント再建術やカテーテルを用いた拡張術など形成外科専門医、心臓血管外科専門医、放射線科専門医により迅速な対応を行っている。

きめ細かな栄養指導など保存期腎不全の治療も徹底

岸和田市にある藤井病院は2015年より「腎・透析センター」が新たに発足。これまでの地域医療の実績をもとに、慢性腎臓病の治療と透析医療のさらなるレベルアップを図る。

「当院ではそもそも、透析治療を開始する前の『保存期腎不全』の治療を徹底し、腎不全の進行を遅らせることを重視しています」と、腎・透析センター長の雑賀保至医師は言う。

腎臓の働きをできるだけ守る

こういった欠点はあまり問題になりません」と射手矢副院長。腹膜透析は以前に比べて簡単に行えるようになり、現在は法人全体で24名の腹膜透析患者を抱える。透析法の指導にあたって、日本腹膜透析医学会の研修を受けた指導認定看護師が退院時も含め計3回、患者の自宅を訪問するほか、不安があれば常時電話で相談できる体制も整える。

東日本大震災から学ぶ透析施設へ

藤井病院に隣接する腎・透析センターは災害時においても透析拠点病院として機能できるように、「東日本大震災災害術調査報告書」を参考に、透析設備の配管から電球まで事細かに設計されている。

地域の中核病院としての責務を果たすため、あらゆる角度から透析患者のニーズに応え質の高い透析医療を提供する努力が続く。

HOSPITAL DATA



医療法人良秀会

高石藤井病院
〒592-0014 大阪府高石市綾園1-14-25
TEL.072-262-5335

藤井病院
〒596-0044 大阪府岸和田市西之内町3-1
TEL.072-436-2201

高石藤井心臓血管病院
〒592-0014 大阪府高石市綾園2-15-18
TEL.072-263-5050

泉北藤井病院
〒590-0126 大阪府堺市南区泉田中3100-19
TEL.072-295-8888

介護老人保健施設 華
〒596-0046 大阪府岸和田市藤井町2-22-20
TEL.072-431-8791

津久野藤井クリニック
〒593-8308 大阪府堺市西区神野町3-2-28
TEL.072-272-1361

岸和田在宅総合センター
〒596-0044 大阪府岸和田市西之内町2-13
TEL.072-436-2217

高石在宅総合センター
〒592-0005 大阪府高石市千代田1-25-15
TEL.072-266-6600